

駿河湾の深海魚 (10)
ホシホウネンエソ (その1)

久保田 正・佐藤 武



図1. ホシホウネンエソ
BL : 28.4mm サクラエビ混獲

ホシホウネンエソ、*Polyipnus matsubarai* は、フニトカゲギス目、ムネエソ科、ムネエソ亜科、ホウネンエソ属に含まれる中・深層遊泳性の魚類の1種です。その分布は、太平洋東北沖、相模湾、駿河湾、熊野灘、土佐湾、九州ーパラオ海域、小笠原諸島近海など西部北太平洋域から知られています。水深100～350mの陸棚斜面に生息しています。図1は、駿河湾内の蒲原沖で行われたサクラエビ漁でサクラエビと混獲された個体です。

本属に含まれる種は、日本近海から本種のほかに6種が知られていて、いずれの種も体高が高く、体は左右に極端に側偏しています。口は垂直であり、頭部と体側に発光器を有しています。本種は、体長約90mmまで成長し、このムネエソ亜科魚類の中では最も大型でポピュラーな種です。また背鰭の前に位置している黒色帯の一部が体の中央で細長く伸びているのが大きな特徴です。英名では silver hatchetfish といいます。

駿河湾内では毎年春季と秋季の2回サクラエビ漁が行われていますが、本種が1977～1981年の春漁(4～6月)で深さ80～130mを曳いた網に大量にサクラエビとともに獲れたことが何

回かありました。そのうち、採集日別に50個体を選んで合計300個体の体長、体重、性比などを調査したところ、体長範囲は18.1～53.0mmにあり、25～29mmと32～35mmに2つのモードがみられました。また、体重範囲は、0.2～3.6gでした。性比は、1:0.22で圧倒的に雌が多い個体群でした。図2は、得られた本種の体長(BL)と体重(BW)の関係を示しています。その関係式は $BW=0.643 \times 10^{-4} BL^{2.822}$ ($r=0.979$, $n=296$) で表されました。

ムネエソ亜科の3属(ムネエソ属、テンガンムネエソ属、ホウネンエソ属)に含まれる魚類は、それぞれが独特な特徴があるので外見上から属の所属は簡単に判ります。体が側偏している魚類としては、マトウダイ科のマトウダイやカガミダイなどが知られていますが、これらは体長が50～70cm位に成長する大型魚です。日本近海でこの亜科に所属する魚類はいずれも体長が10cm以下の小型魚です。そのため食用としては利用されていません。

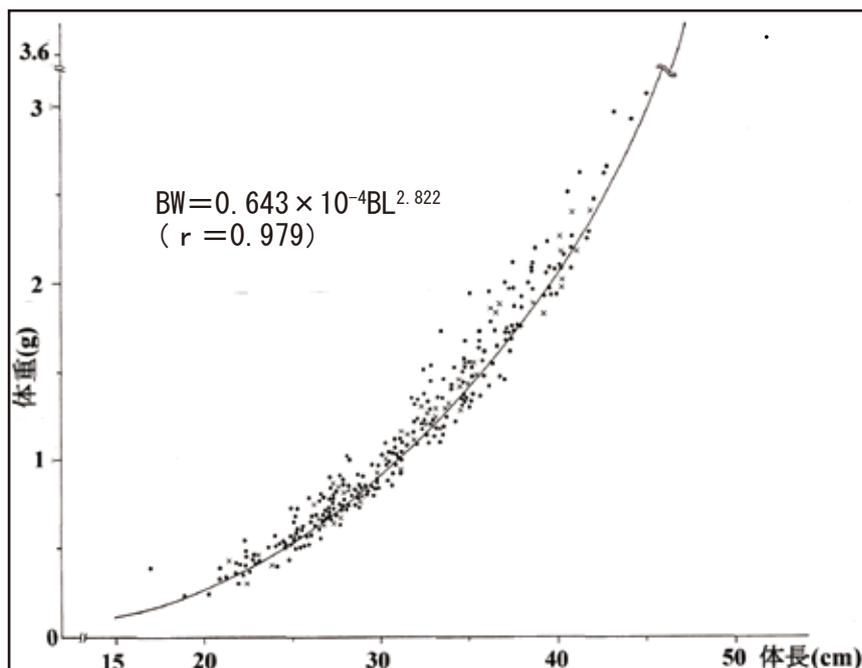


図2. 体長(BL)と体重(BW)の関係
サクラエビ混獲標本(296個体)

・ ; 雌、× ; 雄 (Kubota *et al.*, 1984より引用)